

18歳人口の半減と大学教育の需給関係の変化がもたらすこと
少子高齢化にもなつて大学教育の需給関係が激変している

ことはご承知の通りです。しかし、戦後18歳人口が最大になつた昭和41年の249万人に比べて、平成28年には119万人と実に47・7%に減少していることを頭に入れて熟考された方は案外少ないのではないかと思います。大学進学率は、昭和41年には11・6%にすぎませんでした。平成28年には43・6%と3・75倍に増加しています。しかも、大学・短大のまだ少なかつた昭和41年に比べて平成に入つてからその設立が自由化されたこともあつて、昭和41年頃には18歳人口の15%程度しかなかつた大学・短大の収容力は、平成28年には93・8%に、すなわち、希望すればほぼ全員が大学・短大に入学できるようになつてきました。いま日本の大学の4割強が募集定員までの志願者を確保できず、定員不足をきたしているのは当然の事だと言わねばなりません。

モノあるいはサービスの需給関係で、供給が大きく上回るようになると、その供給を減少させるか、需要を更に増やすかしなければなりません。大学によつては入学者をその年の卒業生もしくは浪人の応募者に限定せず、米国の大学のように、大学もしくは高等学校の卒業生で現に就業している人々の入学または再入学を図ることも考えられます。本学経営学研究科では、就業しながらMBAコースを完了する課程を設けていますが、

学部段階でもそれに似たコースを設定することも考えられます。大学受験希望者数を減らさないようにするためには、大学の教育内容を高める工夫を積み重ねて行くことが不可欠です。需要面の改善を図るためにも供給側の諸条件の改善を図ることが必要になります。

供給側の変革として、最近問題になつてきている大学統合を通じて教育サービスの供給構造を改革するという策も考えられています。最近中教審が大学統合の3方策について発表しましたが、大学が変化の激しい経済・社会の需要に答えられる能力が確保できなくなると、その存在を問われるようになることも考えておかねばなりません。しかし、何よりも大切なことは、大学自身が変化をリードする主体であることを確認することです。凌霄会員の皆様にも是非こういう環境変化をご確認頂き、母校の発展を支えていただきたいと思ひます。

ロイ・スミス先生の肖像画を孫娘さんから母校に寄贈

国立神戸高等商業学校が大阪ではなく神戸に開校されるようになった一因は、神戸港が当時日本を代表する国際貿易港であり、東京に次ぐ高等商業学校は、学術探究だけではなく、国際貿易を担当する人材を養成することを課題にしたからです。従つて、貿易に必要な商業英語の担当者として来神されたロイ・スミス先生は神戸高等商業学校としては、極めて重要なポジションの人でした。しかも、人間的に非常に秀でた方でしたから、本誌418号（平成30年7月）でもご紹介しましたように、学生からも大変慕われ、また学校からも重視されました。そういうこともあつて、1919（大正8）年卒業の皆さんは、同期



生に画家中山正實さんがおられたこともあり、中山さんにロイ・スミス先生の肖像画を画いていただき、昭和26年8月に先生に贈呈されました。奇しくもこのクラスには、一橋大学教授で名声を馳せられた赤松要博士や、六甲台後援会理事長もつとめられた室賀國威さんもおられ、その1年前には、本学教授としてご活躍された平井泰太郎先生や宮

田喜代蔵先生もおられました。この由緒ある肖像画を最近ロイ・スミス先生の孫娘にあたられるシャロン・ウルフェンスさんから、六甲台後援会に寄贈したいというメールが後援会宛に平成30年6月5日に届きました。そこで早速、当後援会では、高崎理事長のもと理事会を開き、有難くそれを受け取ることになりました。シャロンさんとの連絡事務は、後援会常務理事の吉井昌彦先生に当って頂きました。シャロンさんからは、当初ロイ・スミス館に飾って下さいとのご要請でしたが、後援会としては、既にロイ・スミス館には先生のご肖像もあるので、ロイ・スミス先生の事を広く一般の学生諸君にも認知して貰いたいとの願望もあって、図書館に掲額させて頂きたいとお願いしご理解を頂きました。

平成30年8月27日、スミス先生の肖像画は無事到着し、10月

の第13回神戸大学ホームカミングデイ社会科学系図書館特別企画として大閲覧室に水島先生の肖像画と並んで掲げられました(写真参照)。

皆様が神戸大学にご来訪の節には、出光佐三記念六甲台講堂の前に立っている水島鏡也先生のご胸像の少し南側にあるロイ・スミス先生のご胸像(そこには、YOUR LIFE IS WHAT YOU MAKE IT という非常に教訓的な言葉が刻まれています)と、この図書館の肖像画と篠原北町4丁目にあるロイ・スミス館は是非ご覧ください。

なお、この肖像画についてのより詳しい情報を得たいと思われる方は、「凌霄」誌第10号(昭和27年4月30日)に肖像画献呈に関するより詳しい記事が掲載されていますので、ご覧ください。

今回シャロンさんとの折衝にあたられた吉井昌彦先生には、心から敬意を表したいと思います。

今回も皆様のご寄附誠に有難うございます

前号で報告させて頂いた後も、本号締切日(11月19日現在)までに左記のとおり多くの皆様から貴重なご寄附を頂きましたのでご報告させていただきます。

金額別に高田由貴子様(平7法)から3千円、松村薫様(昭59経営)、宮本勝裕様(昭63経済)、四宮孝郎様(昭52法)、川口浩二様(昭55法)、古谷浩之様(昭63経営)から各5千円、市野貴之様(昭59法)、藤木登様(昭37法)、大倉青志郎様(昭32法)、森本浩三様(昭53経営)、太田真美様(昭53法)、山本久仁彦様(昭31経営)、渡部進様(昭47経済)、近藤和雄様(昭

32法)、安田嘉雄様(昭24)、岡本康様(昭33経済)、恋田雅一様(昭33法)、本多誠一様(昭44経営)、大久保治様(昭25)、小暮一寿様(平1経済)、小形敏夫様(昭35経済)、北林孝雄様(昭48経営)、金谷俊二様(昭38経営)、岩佐良明様(昭48経済)、福島有恒様(昭36法)、木村正則様(昭50経済)、小林和雄様(昭48経営)から各1万円、和田博様(昭43経済)、中村常保様(昭45経営)、平野知良様(昭47経営)、丹羽徹様(昭38経営)、本間健一様(昭34経済)から各2万円、廣渡柔右様(昭39経営)から3万円、上月秀夫様(昭32経済)、竹川清様(昭51経営)、池田廣信様(前本財団事務局長)から各5万円、鶴浩一様(昭32経済)、四谷實様(昭33経済)、森榮様(昭41法)から各10万円、根岸哲様(昭40法)から50万円。誠に有難うございます。

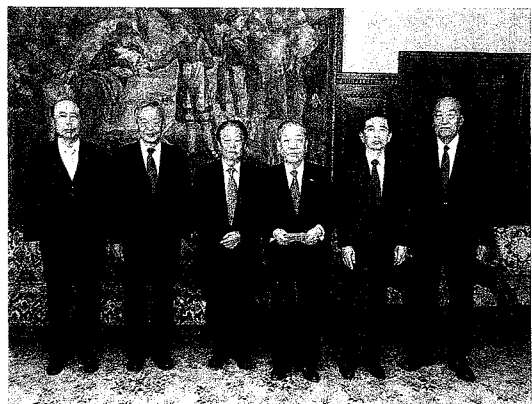
加えて、毎年、社会科学系4研究科及び経済経営研究所の先生方をお願いしている「寄附についても次のとおり頂きました。部局順に法学研究科の先生方56名の16万8千円、経済学研究科の先生方40名の13万円、経営学研究科の先生方55名の16万5千円、国際協力研究科の先生方21名の6万3千円、経済経営研究所の先生方21名の6万3千円がそれぞれです。毎年、先生方には大変有難うございます。

昭和43年法学部・経済学部・経営学部卒業生の皆様からご寄附をいただきました

凌霜43年会の皆様は11月11日六甲台キャンパスに102名の方が参加され「卒業50周年記念同窓会」を盛大に開催されました。そして卒業50周年を記念して六甲台後援会に総額150万円のご寄附をいただきました。凌霜43年会の皆様はこれまでも

永年に亘って毎年卒業式で3学部の成績最優秀学生に「六甲台賞」を授与されてきましたが、卒業50周年を機に「六甲台賞」は当財団の事業として継続させていただくことになりました。

なお、寄附金贈呈式が12月4日六甲台学舎賞賓室で行われ、凌霜43年会を代表して徳田栄造様(法)、河部剛様(経済)、三宅正太郎様(経営)が出席され、当財団からは高崎理事長、吉井常務理事、稲垣常務理事が出席しました。



前号でもご報告しましたが、皆様のご協力により、兵庫県知事から「税額控除に係る証明書」(有効期間、平成30年8月14日から平成35年8月13日まで)を頂いており、「所得控除」又は「税額控除」のどちらか有利な方を選択して頂けるようになっていきます。

お陰様で、本号で新たにご報告できる寄附金額は340万7千円になりました。平成30年度累計は1,123万6千726円です。事務局としてもこの熱い母校支援のお気持ちが生かされるよう運営に努めたいと思います。今後ともどうかよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

毎回お願いしています寄附金の送り先は左記のとおりです。

よろしくお願い申し上げます。

◎銀行送金の場合（銀行からの連絡が遅く、領収書送付が遅れないようにするため、お葉書でも電話・FAXでも結構ですから、送金のことについて事務局にご一報ください）

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合（通信欄に卒業年次と出身学部をご記入くだ

さい）

口座番号 00980-9-116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX(078)861-3013

E-mail: rokkodafund@kobe-u.com